

ることと思います。

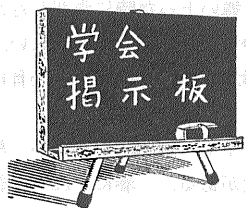
ただこのテストは短時間の化学照射なので 実際室内で長時間曝らすとは条件がだいぶ違ふし これをもって完全とはいいい切れぬ面もあるので この試験とは別に9月20日から同一試料の室内露光を継続し変化を見ているが 43年1月10日現在では用紙の汚れ ヤケを除いては実質的な変化は未だ見られません。これで一応系統的な追跡試験をおえ どうやら耐光性インキの有効性を認めることができたわけですが まだまだこれで十分とは思えません。耐光インキの持っている弱点にたとえば彩度(明るさ)が増すと耐性が下がるとか それに関連して全体の彩色バランスが暗くなるとか いろいろとできそうで各種の耐光インキの特性をしっかりとつかんで全体を向上させていかなければならないでしょう。ただ前に挙げた幾つかの印刷技術上の問題点(主として3原色法による)は どうやら褪色対策の主要なポイントになりかかっている耐光インキを十分に研究することによって当面は回避できそうです。しかし3原色法の問題をも含めて N. Z. の地質図のように中間色・混合色の単色を使用するとか 他の外国資料のよ

うに線の太さを変えるとか そのほか用紙(紙質)の検討など 問題はいくらでもありそうです。

以上回りくどく述べてきたこの一連のテスト結果と耐光性インキ採用にいたる経過で 地質調査所の貴重な研究成果の刊行物が外国の成果品と肩をならべられるようになれば 私たちも任務の一端を果たせることにもなりまじょうし さらに資料出版に従事しておられる各方面の方々のいささかの参考ともなって 適応する印刷インキを指定することが次第に常識となり印刷業者の協力を得て 文献資料としての各種の多色印刷図の価値向上の一助ともなれば これに過ぎる喜びはないと申せまじょう。(筆者は資料室)

おわりに 今次試験にあたって有益な助言とご協力を願った東洋インキ製造(株)池永良生氏および同社青戸工場インキ部の方々に厚くお礼を申し上げます。なお資料室稲村技官 企画官室正井技官には それぞれ外国試料の選定その他適切な助言と協力を願いました。

この褪色試験の詳細については 日本国際地図学会「地図」Vol.6 No.2 1968 に掲載の予定です。



・石炭科学国際会議

1. 昭和43年6月10日(月)~14日(金)
2. 石炭化作用・熱分解・ガス化・石炭組織に関する講演会
3. Mining Institute of the Czechoslovakia, Academy of Science

my of Science

4. 石炭科学国際会議
5. Mining Institute of the Czechoslovak Academy of Science, Praha.

・三十九学・協会連合

1. 昭和43年4月24日(水)~26日(金)
2. 第5回理工学における同位元素研究発表会
3. 国立教育会館(文部省となり)
4. 日本地質学会ほか38学・協会
5. 東京都文京区本駒込2丁目28番45号(理研内) 日本放射性同位元素協会内 理工学における同位元素研究発表会運営委員会 Tel. 東京(03)946-7111

・日本海洋学会

1. 昭和43年4月5日(金)~9日(火)
2. 日本海洋学会春季大会
3. 東海区水産研究所(東京都中央区勝どき5-5-1) Tel. (03)531-1221(代)
4. 日本海洋学会

5. 東京都中野区柴町通1-28

東京大学海洋研究所内 日本海洋学会

・日本分光学会

1. 昭和43年5月24日(金)~25日(土)
2. 昭和43年日本分光学会通常総会・講演会
3. 国立教育会館(東京都千代田区霞ヶ関3-2)
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400 東京教育大学光学研究所内 日本分光学会 Tel. 東京(03)362-7881

・物理探鉱技術協会

1. 昭和43年4月25日(木)~27日(土)
2. 創立20周年記念行事および春季講演会
3. 創立20周年記念行事……………機械振興会館 春季講演会……………早稲田大学小野講堂
4. 物理探鉱技術協会
5. 神奈川県川崎市久本135 地質調査所内 物理探鉱技術協会 Tel. (044)83-3171

・地学団体研究会

1. 昭和43年5月3日(金)~5日(日)
2. 第22回総会(団体研究の成果と今後の方向)
3. 東京教育大学
4. 地学団体研究会
5. 東京都豊島区南池袋2-32-12 埼玉ビル内 地学団体研究会 Tel. (03)983-3378

[注] 1. 開催年月日 2. 会合名 3. 会場  
4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)